

# 大空 (生徒・保護者向け) 16号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和2年8月18日(火)

## 流れ星への願いは叶う—2学期始業式挨拶—

### □本日の概要

- 高校の1学期終業式では、自分が探究したいもの(目標)が明らかになると勉強にも意欲的になれる、目標は与えられるのではなく、自分で主体的に見つける必要があるということ話をした。
- 流れ星に願いを3回唱えると叶うという伝説は、本当である。瞬時に願いを3回唱えられるということは、常に強く考えている思いであるからだ。
- 自分の夢を3回唱えられるくらい具体化して欲しい。そのためにも、先生方に主体的に相談しよう。

### □高校終業式で語ったこと—主体的に目標を見つけよう

今日は2学期の始業式です。2学期は朝陽祭をはじめとする大きな行事があり、学業面でも重要な学期です。新しい生活様式を今まで以上に徹底しながら、充実した学期にしていきましょう。

さて、今日は、高校の一学期終業式での話の後日談を紹介します。中学生の皆さんは高校より一足先に夏休みに入りましたので、ちょっと復習しますと、(校長通信15号参照)そこで紹介したエピソードは、「月面基地を作りたい」という夢を持っていた昔のある西高生のことでした。自分の夢を叶えるためにどんな学問を学べばいいのか分からなかった彼は、担任の先生のアドバイスに従い、大学に質問の手紙を出しました。すると、東大の教授から丁寧な返事が来て、感動した彼は東大を志望校に定めて本気で勉強に取り組むようになったこと、そして東大卒業後、大手建築会社に就職し、南極の昭和基地のプロジェクトに携わるようになったという内容でした。月面基地ではないものの、極限の地で人類が安全かつ快適に暮らす施設を創る仕事に携わるようになったという点で、この生徒の夢は本当に叶ったのです。

私が伝えたかったことは、この生徒が、誰かに勧められて何となく東大を目指したのではなく、自分が情報を得ようと主体的に行動した結果、自分の進路を見つけたということでした。中学生の皆さんには直接伝えられませんが、宮崎西高校が、探究活動に時間を割いたり、感性を大切にしているの

も、自分が本当にやりたいこと、自分が学びたいことは何かを、自分で考え、つかんでもらうためです。附属中学校の学びについても、様々な体験を通じて、自分が生涯をかけて探究する夢を見つけるためにありますので、中学生の皆さんも、「月面基地をつくりたい」というような、大きな夢をもって欲しいと思います。

### □流れ星に願いを3回唱えると叶う

さて、この話をした翌日(8月8日土曜日)に、宮崎西高校の全期合同同窓会が開催されました。例年ですと、何百人もの卒業生が集まり盛大に開催されるのですが、今年は新型コロナウイルスの感染防止のため懇親会はなく、役員が参加する総会のみが開催され、私も校長兼同窓生として参加しました。その会議に、17期生(平成5年卒)の榎本君が役員として参加していました。榎本君は、私が教員として宮崎西高校に勤務していた時の生徒です。私は直接指導することはなかったのですが、当時、榎本君は生徒会長として活躍していたため、私も素晴らしい生徒として記憶していました。卒業後、彼は医学部に進学し、宮崎の地域医療を支える医師として活躍しています。(参考記事を巻末に掲載)

榎本君は月面基地の話に掲載した校長通信に目を通してきて、私にこの月面基地の生徒が同級生であることを教えてくれました。榎本君は、この東大の教授から来た返信を、先生がクラスの生徒の前で読んでくれたことをはっきりと覚えていました。その中で、榎本君が忘れられない教授の言葉があったそうです。それは、こんな内容だったそうです。

君は、「流れ星に願いを3回唱えると叶う」という言い伝えを聞いたことがあるか?そんなの迷信と思うかもしれないが、これは迷信ではなく、本当だ。

なぜ、流れ星に願いを3回唱えると叶うのか。流れ星は、いつ流れるか分からない。そして、ほんの一瞬の出来事だ。しかし、その一瞬に、自分の願いを3回言葉として言えるということは、それはその願いを、常に意識して、強く願っていることに他ならない。一瞬の流れ星に対して、3回

言葉に出して唱えられるくらいの強い夢は絶対に叶う！

この教授の言葉は、質問の手紙を送ったA君だけではなく、その言葉を聞いた榎本君を始め、多くの西高生を感動させたようです。A君の起こした行動は、A君だけでなく、多くの生徒に影響を与えたのです。A君の話を終業式で紹介した翌日に、A君の同級生と偶然出会い、さらに詳しい話を聞くことになるということに、私は一種のシンクロニシティ（意味ある偶然の一致）を感じたのでした。

### 口夢の言語化

この東大の先生の言葉は、単に地方の高校生を励まそうとした言葉ではなく、脳科学的にも理にかなっています。例えばオリンピックのメダリストなどは、オリンピックという目標を具体的にもち、その目標に向かうため、様々な具体的な方法、特に前向きな言葉でモチベーションを高め、努力を継続させているのです。これはスポーツ以外にも当てはまり、例えば有名な企業家や歴史に名を残した人など、同様のエピソードを残しています。（高校の古文で学習する「大鏡」の藤原道長と伊周の弓争いなども同じ例ですね。）何かを達成した人に共通することは、自分の目標やあるべき姿を具体的にイメージし、言葉で表現していることです。すると、人は、その目標のために、自分は何をなすべきか、どう振舞うべきかと考えるようになるのです。自分のレベルに応じて目標を立てるのではなく、目標や夢が、自分を夢の達成に相応しいレベルに高めてくれるのです。皆さんも、流れ星の瞬間に3回唱えることができるような願いを、具体的に言葉で表現して見ませんか。ただし、「金・金・金」は駄目ですよ。夢とは、お金で買えないものでなければなりません。

ちなみに、叶うという文字は、口に十と書きますことから、願いを10回口にすると夢が叶うと良く言われます。漢字のデザインを用いた一種の言葉遊びですが、これが広まったのも、10回口にすほどの強い思いは、本当に叶うということに、多くの人が気付いているからかもしれません。

### 口夢を考える2学期

東大の先生の手紙は、多くの西高生を励まし、やる気にさせてくれました。自分から質問をするという主体的な行為で得られた答えだけに、より大きなインパクトがあったと思います。皆さんは、東大の先生に質問の手紙を書かなくても、まず、西高の先生達に自ら質問や相談をしてみてください。

進路を考えるという意味では、中学校でも高校でも、この2学期は大変重要な学期でもあります。

まず中学生ですが、一般的な中学校では、どの高

校に進学するのかを考えるのがこの時期です。附属中学校の皆さんは進学する高校を選ぶ必要はありませんが、そのかわりに、高校や大学のもっと先をじっくりと考えて欲しいのです。そんな話を、先生方や保護者として欲しいと思います。

高校生については、高校1・2年生は10月に教育課程説明会があります。そこまでに、高校1年生は自分の学びたい学問について、ある程度のイメージができていなければならない、高校2年生は、進学したい大学・学部・学科等についてより具体的になっていることが望まれます。そのための相談をする時間は、実は大変限られており、9月の1ヶ月間しかありません。先生方に相談をして欲しいと思います。

3年生の皆さんは、この秋が正念場です。夏の面談で、担任の先生から様々な激励の言葉をもらったと思います。志望校を定めつつも、どこか、心の底に不安もあるのではないのでしょうか。不安なのは当然です。ここまできたら、今こそ、本校の創設の言葉通り、「全力でやってみる」しかありません。自分の夢を、3回、10回と唱えて下さい。自分は何をやりたいのか、言葉で明確にし、強く心に刻んで下さい。「どうしよう」と途方にくれてもどうにもなりません。本当に達成したい夢なら、皆さんの行動が変わります。行動を変えて、とことんやってみるしかないのです。

今までも、多くの西高生が不可能を可能に変えてきました。その背景には、それぞれの強い願いと、それを支えてくれる多くの人びとがいたのです。2学期始業式が、皆さんの願いを再確認し、全力での頑張りのスタートになることを期待しています。頑張ってください。

榎本君の活躍を伝える記事  
2020年4月14日 宮崎日日新聞